



【先週のメッセージより】

「弟子化／私たちに与えられている使命」

マタイ 28:19-20 はイエスの「大宣教命令」の一つとして知られているが、この命令の中心の動詞（主動詞）は「弟子とせよ」とである。これは「**人々をキリストの弟子にしていくこと**」こそ、教会に与えられている最大の使命であるという意味である。

「弟子とせよ」の動詞にはさらに三つの分詞が付随しているが、最初は「**行きながら**」である。これは文頭に来ており「人々を弟子化」することの第一歩が、既に弟子とされている私たちが「行く」ことにあることを示している。私たちは「**YES SIR、分かりました!**」と行って主に従うのである。躊躇なく「行く」ようでありたい。

二番目の分詞は「**バプテスマを受けながら**」であるが、弟子の生涯のスタートは信仰決心から始まる。人が信仰決心に至るためには、既に救われた者たちが、忍耐強く、御言葉の種を蒔き、祈りを積み、聖霊に働いていただかなければならない。一人の人の救われ、受洗に至るために、私たちは労力を惜しんではならない。

三番目の分詞は「**教えながら**」であるが、イエスが命じた全てのことを「守るように」つまり「実行するように」教えると言うのである。御言葉を実行する人は岩の上に家を建てた人に比べることができるが、実質的な成長を成し遂げ、キリストの似姿に変えられていくことこそ、神の御心である。一人の人が成長するために教会は多く労する必要があるが、そこには大きな喜びがあることを覚えたい。

この命令を教会がイエス様が戻って来るまで果たすことができるように主が最後に約束されたことは、「**世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいる**」というものであった。私たちは恐れることなく、大胆に出て「弟子化」の務めを果たして行こう。■

【聖霊について (1)】「**クリスチャンは歩く神社**」

● 初詣。日本では人々は神に願いごとを聴いてもらうために神社仏閣に出向きます。しかしクリスチャンはどこにも行く必要がありません！なぜなら、クリスチャンは「神の神殿」(I コリ 3:16) であり、神の御霊が宿っている「聖霊の宮」(I コリ 6:19) だからなのです。クリスチャンは正に歩く神社なのです。

● これは全て、罪を悔改め、イエスの御名に信頼し、イエスを主と告白して歩む人々に実現している事実です。今までそのことを意識したことがなかったかも知れませんが、そういう「感じ」がしないかも知れませんが、パウロは御霊が内に住んでおられることを、ことさらに意識するように私たちを諭しています。これから何回かにわたってこの紙面で聖霊の働きについて書いて参りますが、聖書を通し、聖霊がどのような働きを具体的にしておられるのか学んでいくことで、自分の生活の中でも聖霊なる神さまが実際にいろいろとしてくださっていることに気がつくようになっていただきたいと思います。

● 最後に、私たちが「聖霊の宮」であるがゆえに覚えておきたいことは、神はきれいな宮を好まれる、ということです。確かに私たちは罪のあるままで救われました。しかし汚れたままでいることは望まれません。私たちが聖くなることを神は求めておられるのです。ですから、日々、悔い改め、神の御心を行うことを決意していくことが大切です。私たちの態度が悪い時には、聖霊は悲しまれますし(エペソ 4:30)、御霊の働きを消してしまう(I テサ 5:19)こともできてしまいます。御霊に喜んで住んでいただけるよう、境内の掃除はキチンとしたいですね。■

【今週の英語】

Since the days of Pentecost, has the whole church ever put aside every other work and waited upon Him for ten days, that the Spirit's power might be manifested? We give too much attention to method and machinery and resources, and too little to the source of power. HUDSON TAYLOR ペンテコステの日以来、聖霊の力が顕現されるよう、教会は他の全ての仕事をやめて神の御前に10日間祈り続けたことがあるだろうか？ 私たちは力の源ではなく、あまりに方法論、機械や資源に思いを向けすぎではないだろうか？ ハドソン・テラー